



おりこう
折高だより 令和6年度第1号
福岡県立折尾高等学校

令和6年4月8日
校長 浪崎 陽一

令和6年度を迎えるにあたって ～1学期始業式式辞～

皆さん、おはようございます。先ほどの新転任式で紹介された先生方が新たに加わりまして、令和6年度第1学期がスタートしました。昨年度までは感染症予防対策で学校行事には様々な制限がありましたが、今年度からはすべての行事で通常どおり実施していく予定です。

さて、話の本題に入る前に皆さんにひとつ質問をした

と思います。二宮尊徳、通称二宮金次郎を皆さんはご存じですか。薪を背負い、本を読みながら歩いている姿の像です。金次郎は江戸時代後期の農政家・思想家で、幼くして両親を亡くし、叔父の家で生活しなければなりません。大変貧しく、厳しい境遇から死に物狂いの努力を重ねて江戸幕府の役人になり、社会に多大な貢献をした人物ですが、この金次郎の像が小学校や中学校にあった人は手を挙げてください。

自分の子供達が通った中学校には校門を入った所であり、嬉しく思っていたのですが、実はこの二宮金次郎の像が全国の学校で撤去の動きがあるという記事を先日雑誌で読みました。理由は何だと思えますか。

「歩きスマホ」を誘発するからだそうです。また、子供が歩きながら勉強をすることを奨励していることになり、危険だという理由だそうです。きっと金次郎もあの世で驚いていることでしょうね。

賢明な皆さんは当然理解していると思いますが、二宮金次郎の像は、あくまで勤労・勤勉の象徴であって、「ながら勉強」を勧めているわけではありません。まして言わんや「歩きスマホ」の奨励でもありません。苦しい、厳しい境遇にあっても努力をすることによって、人生は切り開かれるということを教えてくれているわけです。努力することの大切さを教えてくれているのです。

二宮金次郎は戦前の道徳の教科書、いわゆる「修身」の教科書では必ず登場する偉人でした。恵まれない境遇に負けず、努力して勉強に励めば、金次郎のように立身出世を叶えられると教えているわけです。我々はややもすると、自分が失敗したり、勉強がうまくいかないことを周りのせい、環境のせいにしがちです。言い換えると責任転嫁です。「部活動が忙しいから」とか、「家だと弟達がうるさくて集中できないから」といった責任転嫁をよく耳にします。しかし、自分がうまくいかないことを境遇のせい、周りのせいにしていないことは、人生で成功する大きな鍵となると私は信じています。

さて、皆さんは金次郎のように寸暇を惜しんで勉強や部活動に勤しんでいますか。資格取得に向けて努力はできていますか。本校のキャッチフレーズにあるように「未来の自分は今日の自分がつくる」のです。皆さん、ぜひ、本気で取り組んで欲しいと思います。時には失敗することもあるでしょう。しかし失敗なき成功はありません。ぜひ失敗を恐れずに何事にも果敢にチャレンジしてください。最後に金次郎のこぼれを紹介して終わりたいと思います。意味は皆さんでじっくり考えてください。

キュウリを植えれば
キュウリと別のものが
収穫できると思うな。

人は自分の植えたものを
収穫するのである。

スクール・ミッション



地域社会で活躍できる産業人材を育成する学校

商業・家庭の各分野において、将来の職業生活につながる実践的で協働的な教育活動を行い、広い視野と豊かな人間性を育むことで、これからの地域社会を主体的に創造できる人材を育成します。

